

お子さんやお孫さんにワクチンを勧める前に

「新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、また、感染や重症化を予防する効果も確認されています。時間の経過とともに感染予防効果や発症予防効果が徐々に低下する可能性はありますが、重症化予防効果は比較的高く保たれていると報告されています。」(厚生労働省HPより)

上記のようにすでにワクチンは一定の役割を果たしたと言えるだろう。しかし子どもたちへの接種については慎重さも必要かもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

ワクチン、予防接種とは
 予防接種とは、感染症の原因となる病原体に対する免疫ができる体の仕組みを使って、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。
 一般に、感染症にかかると、原因となる病原体(ウイルスや細菌など)に対する「免疫」(抵抗力)ができます。免疫ができることで、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりするようになります。
 予防接種とは、このような体の仕組みを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。
※厚生労働省HPより

厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人
※1 後遺症の人数は令和4年12月31日までの報告数(厚生労働省HPより)

未成年者(0歳〜20歳未満)がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか?
 厚労省の資料(図①)によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々**重度の基礎疾患**があったことが分かっている。そして、もう一人は「コロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために」コロナ感染死扱いになったものだ(東京新聞発表)。つまり、**これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はおらず、重症化もほとんどない**。(令和4年1月21日時点)

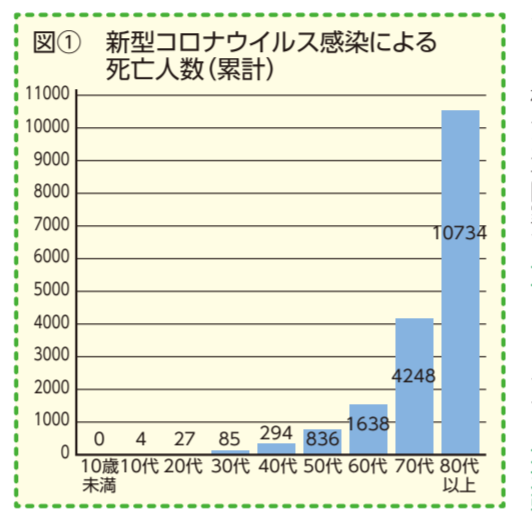
一方で、**これまでオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる**。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省などのデータから読み取れる。

ところが未成年者がワクチンを打つことによって、**多くの重篤者(命の危険が迫っている患者)の死亡や死亡者が出た**。昨年10月30日には**13歳の少年が新型コロナワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているところを発見**されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1606人**に上り、そのうち**重篤者は387人、後遺症8人、死亡者は5人**に上る。すでに**本末転倒な状況**。

しかしその目的のために、子どもや若者達に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授(分子病態学)から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

この状況を招いた要因のひとつは、国や自治体が躍りになって広めた「**周りの人のために接種すべき**」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要ななくても、子どもや若者も「**家族や会社や社会のために接種すべき**」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

この状況は招いた要因のひとつは、国や自治体が躍りになって広めた「**周りの人のために接種すべき**」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要ななくても、子どもや若者も「**家族や会社や社会のために接種すべき**」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。



健康な未成年者にワクチン接種は必要でしょうか?

厚労省はホームページに「ワクチンが直接的に不正性器出血(不正出血)や月経不順を起すことはありません。」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めていて、生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の変化などの症状だけでなく、閉経したが生理が再開したという副反応まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が出てきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起っている。

この状況は招いた要因のひとつは、国や自治体が躍りになって広めた「**周りの人のために接種すべき**」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要ななくても、子どもや若者も「**家族や会社や社会のために接種すべき**」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

ワクチン接種と1400人超の死亡は本当に関係ない?

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医者がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で**1444人**に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合も含めて、厚労省は一人として**因果関係を認めない**。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「**現時点で、新型コロナワクチンの接種が原因で多くの方が亡くなったという情報はありません**。」という見解だ。それだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、ワクチン接種後の死亡者を「**接種後、何日に死亡したか**」で分類すると、死亡理由がたまたまでないことが見えてくる(図②)。もし本当に死亡した人達がワクチンと関係なく、たまたまその日に何かの病気で死亡したのであれば、日毎の偏りはさほど大きくないはず、ある程度ならなられた分布になることが予想される。しかし実際に接種した翌日までに死亡した人が多く、**赤線**のような極端な分布になる。**この統計はワクチン接種と死亡との因果関係を示唆しているのではないだろうか。**

もちろん個々の因果関係は分からないが、死亡者の死因も千差万別ではなく、**血栓症(血の塊が血管を塞ぐ病変)や循環器系(心臓)**、と、全身に血液を循環させる血管ネットワーク(障害が多い。この偏った分布と死因を見る限り、ワクチンにはまだ明らかにされていない何らかの有害性があり、それが原因でこれまでに健康な若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。

POINT!

厚労省HPから推察される**コロナワクチン2つの事象**

- ① 接種後翌日までに死亡した人が多い。
- ② 接種後死亡者の主な死因は、**血栓症や循環器系障害**。

推察 「ワクチン接種」が原因で死亡した人がいるのでは?

図② ワクチン接種後、何日目に死亡したか

厚生労働省HP 新型コロナワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要(令和4年1月21日)を基にゆうネットが作成

図③ 日本国内の死亡者統計(2020年 約137万人)

死因	人数
がん	37.8万人
心疾患	20.5万人
老衰	13.2万人
脳血管疾患	10.2万人
肺炎	7.8万人
誤嚥性肺炎	4.2万人
自殺	2万人
新型コロナ	1.8万人

新型コロナは日本人にとって深刻な病気でしょうか?

ワクチンの安全性は?

厚労省はホームページに「ワクチンが直接的に不正性器出血(不正出血)や月経不順を起すことはありません。」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めていて、生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の変化などの症状だけでなく、閉経したが生理が再開したという副反応まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が出てきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起っている。

厚労省は「**審議結果報告書**」の中で「**接種後長期の十分な安全性データが得られていないことは留意が必要である**。」と記載している。ワクチンの安全性を

確認する手続きを**特例承認**で省略したため、厚労省も今後数年にわたって何が起ころうか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生産機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。製薬会社が厚労省に提出している「**薬物動態試験の概要**」には、**ワクチンの成分が卵巣や精巣上体にも集まる動物実験のデータがある**。厚労省ホームページには「**新型コロナ**

ナワクチンも含め、これまでに日本で使用されたどのワクチンも、不妊の原因になるという科学的な根拠は報告されていません。」と書かれている。

これについて前出の井上正康名誉教授は「**コロナワクチン接種は始まったばかりであり、不妊の根拠が報告されたりしたら、これから数年〜数十年後のことである。何らかの異常や有害事象が起る可能性は否定できない**。臨床試験中の実

験試験とはそういうものであり、動物実験で危険性が示唆されている治療薬を生殖世代に接種すること自体極めて非常識である」と警鐘を鳴らし続けている。すでに全国の医師3900人が連名でワクチン接種中止を求め、厚労省に提出しているが、今後もしもや生理不順や無月経、生理痛などの健康被害が増え続ければ、**薬害事件**に発展する可能性もある。

その大半が厚労省のホームページで公開されているもの。ところがテレビやインターネットのニュース情報では、接種のメリットや安全性が強調されがちで、リスクは積極的に報道されない。だからこそ自ら情報を取りに行くことが大切だ。新聞や本など様々な情報に触れ、ワクチン接種のメリットとデメリットを正しく理解することが、今国民一人一人に求められている。

(令和4年1月21日時点)

わが子を守れるのは、あなただけ

厚労省ホームページから「**未成年接種**」を考えました。詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。右2次元バーコードからもご覧頂けます。▶▶▶

<https://jcovid.net/>

累計寄付金額 238,348,882円 (2021年11月30日~2022年3月6日17時00分時点)

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記2次元バーコードよりご意見をお寄せください

ご意見・感想をお聞かせください。メール mail@dbank.jp